

「木づかい」産業における男女共同参画推進による地域活性化 —中部地域をモデルケースとしたワークショップ— 開催のご報告

ダイバーシティ推進委員会委員長

恒次祐子（国立研究開発法人 森林総合研究所）

1. はじめに

2015年11月29日に日本木材学会、日本森林学会、内閣府、ならびに男女共同参画推進連携会議の主催による「『木づかい』産業における男女共同参画推進による地域活性化—中部地域をモデルケースとしたワークショップ—」を名古屋大学豊田講堂シンポジウムにて開催しました。本ワークショップは内閣府男女共同参画局が毎年募集する「国・地方連携会議ネットワークを活用した男女共同参画事業」に木材学会、森林学会が共同で応募し、採択されたことにより行われたものです。同事業下では毎年10件弱のセミナーやシンポジウムが全国で開かれており、今年度は本ワークショップを含めて8件の企画が採択されました。今年度募集における重点テーマは「地域社会における女性の活躍推進」と「『北京+20』等男女共同参画に関する国際的な取組に関連する啓発」の2つでしたが、これらに限らず応募者は男女共同参画に関する具体的なテーマを設定して応募することが求められます。本ワークショップについては「川上から川下までの関係者が一堂に会し、『木づかい』産業が創るこれからの地域社会像を描き、共有すること」、「新たなネットワーク形成のきっかけとすること」、「次世代に『木づかい』産業の魅力と可能性を伝えること」の3点を目標としてテーマを設定しました。



図1 ワークショップのポスター

2. プログラム

本ワークショップの企画および運営は日本木材学会、日本森林学会の男女共同参画活動に関係する数名ずつが中心となって行いました。木材学会からは中山榮子先生（昭和女子大学）、山崎真理子先生（名古屋大学）、恒次、日本森林学会からは竹中千里先生（名古屋大学）、吉田智弘先生（東京農工大学）というメンバーでした。また学会ダイバーシティ推進委員会委員の先生方には企画についてご意見をいただくなどご助力をいただきました。特に委員の飯島泰男先生（秋田県立大学名誉教授）、木村彰孝先生（長崎大学（現広島大学））、高野真理子先生（森林総合研究所）、堀澤栄先生（高知工科大学）、ならびに本学会副会長の福島和彦先生（名古屋大学）には当日グループ討議のファシリテータとしてご尽力をいただきました。この紙面をお借りして御礼申し上げます。

当日は最初に原 薫氏（(株)柳沢林業代表取締役）から「男女協働で最高のパフォーマンス

ンスを」と題した基調講演をいただきました。ご自身が林業の道に進まれたきっかけから、現在どのように社員の個性を尊重しながら地域林業に貢献する林業会社経営を行われているかというお話まで、時間があつという間に感じられるご講演でした。

続いて事例紹介として、川上から川下まで様々な業種で活躍されている女性技術者に登壇いただき、「私が選んだ仕事、そして夢」というテーマで講演をいただきました。また本企画では、事例紹介者の同僚または上司である男性にも登壇いただいて、コメントをいただくという形式にしました。これにより客観的な視点を持つことができましたと思います。

ご登壇いただいた、大西沙織氏（中部森林管理局）、河合美希氏（東白川村森林組合）、小峰裕美氏（(株)フジイチ）、都築知佳氏（兼房（株））、久野奈穂子氏（なな喜設計事務所）の5名の方々は仕事の内容も経験年数もそれぞれに違っていました。林業、木材産業における仕事の魅力や今思うことなどをそれぞれご自分の言葉でお話いただきました。同時に登壇いただいた男性上司の方々のコメントからは「女性だからできないという仕事はない、女性にもできる方法をみんなで考えればよい」「だからぜひ男女を問わず若い世代に林業、木材産業に飛び込んでみてほしい」という熱意を感じました。参加されていた学生さんにも伝わったことを願っています。

プログラムの後半では10人ほどのグループに分かれ、まずは『木づかい産業が創る20年後の地域社会』の理想を描く」というテーマでディスカッションを行いました。各グループは「都心部」「都心部と山間部の中間にある地域」「山間地域」の3種類の仮想地域のうち、くじ引きで選んだ2つの地域について「20年後にどのようになっているたら理想的か」を話し合い、続いて「その理想社会を実現するために各業界・各人は何ができるか」についても議論します。各グループには森林学会、木材学会から2名ずつのファシリテータが付き、ディスカッションの進行にあたりました。ディスカッションに入る前にプログラム後半の企画と進行を担当いただいた高野雅夫先生（名古屋大学）、山崎真理子先生により「アイスブレイク」としてクイズ形式ビンゴ大会（林業、木材産業に関する問題に正解した場合だけ数字を消せる）があつたり、議論によりひとつの結論を出す必要はないとの説明があつたりしたおかげで、和やかにワークショップを進めることができたと思います。最後に各グループからどのような意見があつたかという発表があり（バイオマスエネルギーの利用や木造建造物による町作りという意見も多かつたです）、ほぼ時間通りに全プログラムを終了しました。



図2 ワークショップ（ビンゴ大会）の様子

3. サイドイベント

ワークショップ当日の午前中には林業女子会@岐阜が主催する「Forest Science Café」とのイベントが開催されました。筆者は午後からのワークショップの準備で参加できません

でしたが、「木材資源の利用と私たちの暮らし」というテーマの下では梅咲直照氏（木材学会前理事）による「木材市場に関わる現状について」、福島和彦先生（木材学会副会長）による「木質バイオマス利用の現状と課題」という講演が行われ、盛況だったとお聞きしております。また前夜には同じく林業女子会@岐阜主催の「林業 BAR」なるイベントもあったようで、ジビエ料理で盛り上がったとか・・・いつかどこかで「木材産業 BAR」もできるといいですね。

4. おわりに

和やか、かつ熱気あふれるワークショップとなり、今後も機会があれば同様の活動などを通して、就職世代に向けた「木づかい」産業からの情報発信力を高めていくことが必要であると感じました。ダイバーシティ推進委員会が中心となって企画、運営を進めた本ワークショップでしたが、当日は鮫島正浩会長をはじめ多くの学会員の方々にもご出席いただきました。ありがとうございました。日本森林学会で男女共同参画を担当される先生方との連携が深まったこともワークショップを通じた成果のひとつであったと考えています。今後もダイバーシティ推進委員会として学会員のみなさまにお役に立つような活動を進めていきたいと思っておりますので、ご支援をよろしくお願い申し上げます。

「木づかい」産業における男女共同参画推進による地域活性化 —中部地域をモデルケースとしたワークショップ—

【日時】2015年11月29日（日）13:00～17:00

【場所】名古屋大学豊田講堂シンポジオン

【参加者数】一般参加者 81名、学会関係者および登壇者 26名

【プログラム】（敬称略）

司会進行： 中山 榮子（日本木材学会・昭和女子大学教授）

13:00 開会・趣旨説明 「木づかい」産業における男女共同参画推進のために
竹中 千里（日本森林学会・名古屋大学教授）

13:10 基調講演 「男女協働で最高のパフォーマンスを」
原 薫（株式会社柳沢林業代表取締役）

13:50 事例紹介 「私が選んだ仕事、そして夢」
大西 沙織（中部森林管理局技術普及課 緑の普及係長）
河合 美希（東白川村森林組合）
小峰 裕美（株式会社フジイチ）
都築 知佳（兼房株式会社）
久野 奈穂子（なな喜設計事務所代表）

14:50 休憩

15:10 ワークショップ 「木づかい産業が創る20年後の地域社会」
（コーディネータ） 山崎 真理子（日本木材学会・名古屋大学准教授）
高野 雅夫（名古屋大学教授）

16:50 閉会の挨拶 河野 充（中部森林管理局次長）